

## 4つの財務諸表からみた四日市市の財政(平成21年度決算・連結ベース)

四日市市では、平成20年度決算より、基準モデルにより財務諸表を作成しています。これにより、市民の皆様への分かり易い財政状況の説明に活用できるものと考えています。

### <資産の部>

平成21年度末の資産の総額は9,159億円で、うち93.0%が非金融資産となっています。

前年度に比べて、資産全体で36億円減少しております。これは、非金融資産が減価償却や土地の評価替で減少したこと等によるものです。

#### (金融資産)

金融資産の総額は、641億円で、前年度に比べ51億円増加しています。これは、債権は土地開発公社の無利子貸付金等で12億円減少し、財政調整基金や国民健康保険支払準備基金等の基金積立金が55億円増加したこと等によるものです。

#### (非金融資産)

非金融資産の総額は8,518億円で前年度に比べ、87億円減少しております。

これは、資産の減価償却や評価替等により、事業用資産で70億円、インフラ資産で17億円減少したことによるものです。

### <負債の部>

平成21年度末の負債の総額は、2,945億円で、うち83.1%が地方債となっています。前年度に比べ、負債全体で103億円減少しております。これは、地方債が85億円減少したこと等によるものです。

#### (流動負債)

流動負債の総額は、284億円で前年度に比べ44億円減少しています。平成22年度の地方債元金償還額は54億円減少しています。

#### (非流動負債)

非流動負債の総額は、2,661億円で前年度に比べ59億円減少しました。これは主に、地方債残高の減に努めたことにより、平成23年度以降に償還する地方債が31億円減少したこと等によるものです。

### <純資産>

純資産の総額は、6,214億円で前年度に比べ67億円増加しています。

なお、純資産の内訳は純資産変動計算書に示しています。

貸借対照表(バランスシート)							
貸借対照表は、年度末時点(平成21年度末)において、市にどれだけの価値(資産・負債・純資産)が存在しているかを表すストックの明細です。表の左に資産を表示し、右側に負債と純資産を表示しております。							
(億円)							
資産の部(これまでに作り上げてきた財産)				負債の部(将来世代が負担する金額)			
	平成20年度	平成21年度	増減		平成20年度	平成21年度	増減
(1)金融資産				翌年度償還予定地方債	256	202	54
資金、基金、未収金など	590	641	51	未払金	40	52	12
				その他流動負債	32	30	2
(2)非金融資産				地方債	2,275	2,244	31
事業用資産				退職給付引当金など	205	188	17
市庁舎、学校、保育園、市民センターなど	1,805	1,735	70	その他固定負債	240	229	11
インフラ資産				負債合計	3,048	2,945	103
道路、公園、上下水道など	6,795	6,778	17	純資産の部(今までに蓄積してきた正味資産)			
繰延資産	5	5	0	純資産合計	6,147	6,214	67
資産合計	9,195	9,159	36	負債および純資産合計	9,195	9,159	36

### 貸借対照表からみえてくる四日市市の資産と負債のポイント

#### 市民1人が持っている純資産

純資産 203万5千円 = 資産(300万0千円) - 負債(96万5千円)  
(平成20年度 純資産 201万5千円)

#### 庁舎や道路、公園などの資産で、今までの世代で負担が終わっている割合

社会資本形成の世代間比率 73.0% 【 = 純資産 / (事業用資産 + インフラ資産) 】  
(平成20年度 71.4%)

社会資本に対する、現在までの世代の負担割合を「社会資本形成の世代間比率」といいます。つまり庁舎や道路、公園などの財産を今までの世代がどれだけ負担してきたのかがわかるものです。

少子高齢社会を見据え、将来への負担を適正に保ち、負担を先送りしないよう、健全な財政運営に努めます。

#### 純資産比率

純資産比率 67.8% 【 = 純資産合計 / 総資産合計 】  
(平成20年度 66.9%)

純資産比率とは、総資産に占める純資産(今までに蓄積してきた資産)の割合です。その比率が高いほど財務の安定性が高いと言われています。

<行政コスト計算書>

平成21年度の収支差額(純経常費用)は、前年度に比べ61億円増加しました。

これは、経常費用は15億円減少しましたが、経常収益が76億円減少したためです。

(経常費用)

経常費用は、1,643億円で前年度と比べ15億円減少しております。これは、定額給付金等で移転支出的なコストが48億円増加したものの、人にかかるコストが退職手当等の人件費の減により19億円、物にかかるコストが競輪事業等において43億円減少したためです。

(経常収益)

経常収益は553億円で前年度に比べ76億円減少しております。これは、競輪事業において58億円減少したこと等によるものです。

行政コスト計算書			
四日市市の経常的な活動にともなうコストと使用料や手数料などの収入の差し引きしたものを示すものです。従来の現金主義に基づく官庁会計では把握していなかった減価償却費などの非現金支出についても計上しています。			
(億円)			
	平成20年度	平成21年度	増減
経常費用 (A)	1,658	1,643	15
人にかかるコスト 人件費、退職手当など	304	285	19
物にかかるコスト 物件費(委託料など) 減価償却費 維持補修費など	974	931	43
移転支出的なコスト 社会保障給付など	306	354	48
その他のコスト 借入金金利など	74	73	1
経常収益 (B)	629	553	76
使用料など	629	553	76
純経常費用 (A) - (B) (経常費用 - 経常収益)	1,029	1,090	61



<資金収支計算書>

平成21年度の資金の残高は、199億円で前年度に比べ8億円増加しています。

これは、地方債の借入と償還の差である財務的収支が6億円減少したものの、未払金の増等による経常的収支の増加が10億円と、インフラ資産整備の減等による資本的収支の増加が8億円あったためです。

資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)				
四日市市の現金の流れを示しています。その収支を3つの活動区分に分け、どの活動にいくら現金を使ったのかを表しています。経常的収支は、一般的な行政の活動にかかるもの資金の動きです。資本的収支は固定資産の取得などに関するものです。財務的収支は、借金の返済などです。				
連結				
	平成20年度	平成21年度	増減	
期首資金残高 (A)	195億円	191億円	4億円	
当期収支	経常的収支 税収、国庫支出金、 人件費など	324億円	334億円	10億円
	資本的収支 固定資産形成支出など	188億円	180億円	8億円
	財務的収支 地方債など	140億円	146億円	6億円
	(B)	4億円	8億円	12億円
期末残高 (A) + (B)	191億円	199億円	8億円	

貸借対照表の資産の部(資金)と合致



純資産変動計算書

四日市市の純資産(資産から負債を差し引いたもの)が、前年度からどのように変化したのか、その原因はなにかを示すものです。

	連結		
	平成20年度	平成21年度	増減
期首純資産残高	6,138億円	6,147億円	9億円
当期変動高 純経常費用	1,029億円	1,090億円	61億円
財源調達 (税収、国庫支出金など)	1,534億円	1,532億円	2億円
その他 (インフラ資産減価償却費など)	496億円	375億円	121億円
期末残高	6,147億円	6,214億円	67億円

貸借対照表の純資産の部と合致



<純資産変動計算書>

平成21年度の残高は6,214億円で、前年度に比べ67億円増加しています。

これは、行政コスト計算書の純経常費用である当期変動高が61億円減少したことや、土地開発公社の土地の評価損が平成20年度に完了したこと等により、121億円改善したためです。